

英虞湾周辺における社会情勢の変遷

西暦	年号	
	元禄時代	潮止め工法の普及による新田開発が急速に普及 波切大方浦、鯛浦間、明神浦の干拓 船越船越浦、半女浦の干拓
1699	元禄12年	神明大方新田の干拓
1703	元禄16年	鶴方小向井新田の干拓
1706	宝永3年	立神阿鎌新田の干拓
1870年代	明治の初め頃	マイワシ漁が盛んに行われる
1877	明治10年	内国勸業博覧会に出展された真珠60点のうち英虞湾から6点を出品
1886	明治19年	神明でナマコの移植試験が行われる
1888	明治21年	御木本幸吉が神明浦においてアコヤガイの養殖に着手
1889	明治22年	小川小太郎が神明浦でアコヤガイ養殖を行う
		英虞郡漁業協同組合が小型アコヤガイの採捕規制を行う
1890	明治23年	御木本幸吉が神明浦において真珠養殖試験に着手
1892	明治25年	神明浦で赤潮による被害が発生
1893	明治26年	御木本幸吉が半円真珠の作出に成功
1896	明治29年	御木本幸吉が半円殻つき真珠養殖の特許権「真珠素質被着法」を取得
1897	明治30年	浜島岩崎の埋め立て工事17,130㎡(明治31年まで) 御木本幸吉が半円真珠をノルウェーの万国博覧会に出展
1899	明治32年	浜島大矢区浦の浜埋め立て工事 三重県水産試験場が浜島に仮設置される
1900	明治33年	神明浦で赤潮による被害が発生 皇太子のご成婚祝いとして、志摩郡から真珠3個を献上
1901	明治34年	三重県水産試験場庁舎が浜島岩崎埋立地に完成
1902	明治35年	三重県水産試験場が鶴方浜でマガキの養殖試験を行う
		志摩水産補修学校(現在の水産高校)が和具に開校
1903	明治36年	鶴方カヤウの埋立工事が行われ、鶴方港として栄える 漁業法の制定により真珠の区画漁業権が設定される
1905	明治38年	神明浦で赤潮による被害が発生
1907	明治40年	見瀬辰平が真円真珠の生産にかかる「介類の外殻膜内に真珠被着用核を挿入する針」の特許権を取得 西川藤吉が真円真珠の生産にかかる4件の特許を出願。1916年および1917年に特許権を取得 「西川式」、「ピース式」と呼ばれ、現在の挿核技術の基礎となる
1908	明治41年	西川藤吉が垂下式養殖試験を行う
	明治42年	英虞湾内に巡航船が就航
1914	大正3年	御木本幸吉が支柱式の養殖カゴの特許を取得
1816	大正5年	このころ浜島でアコヤガイ増殖を目的に投石事業が行われる 浜島真珠組合設立
1917	大正6年	見瀬辰平が真円真珠の生産にかかる「誘導式」と呼ばれる特許を出願(1920年登録)
1918	大正7年	御木本幸吉が真円真珠の生産にかかる「全巻き式」と呼ばれる特許を出願(1919年登録)
1919	大正8年	鳥羽、鶴方間に乗り合いバスが運行 御木本幸吉がロンドン市場に真円真珠を出品 この頃漁船の機械化・大型化が進み、浜島では遠洋カツオ・マグロ漁業が盛んとなる
1921	大正10年	英虞湾内の巡航船を統合し、鶴方に「志摩巡航船会社」を設立
1922	大正11年	猪野秀三が生殖腺に挿核し、大珠真珠の生産に成功 志摩水産学校が三重県立志摩水産学校に改称 真珠のしみ抜き法が発明される
1923	大正12年	三重県水産試験場がアコヤガイの採苗試験を開始
1924	大正13年	パリ真珠裁判決着
1925	大正14年	御木本幸吉と立神村との間で区画漁業権取得の騒動が発生 日本真珠養殖組合設立(御木本幸吉組合長) このころ地撒式養殖から垂下養殖への移行が進み、貝掃除が行われるようになる
1926	大正15年	冷潮による被害が発生。三重県で避寒作業が行われるようになる 冷潮による被害を防止するため、深谷水道の開削が計画される
1927	昭和2年	卵抜き法による仕立て技術の開発が始まる
1928	昭和3年	特許の分権化により真珠養殖業者が増加
1929	昭和4年	志摩電気鉄道(鳥羽—賢島)が開通 真珠湾交通株式会社が本社を賢島に移転。英虞湾内に巡航船を就航
1931	昭和6年	浜島城山埋め立て工事
1932	昭和7年	三重県水産試験場が浜島城山埋立地に移転 深谷水道が開削される
1934	昭和9年	丸太組筏の普及が進み漁場が拡大。海女による管理作業が減少
1935	昭和10年	養殖業者が増加し、生産量が増大したため、価格が低落
1940	昭和15年	奢侈品等製造販売制限規則による真珠養殖の統制
1942	昭和17年	真珠生産体制の再構築が図られる(企業合同体化)
1944	昭和19年	東南海地震
1945	昭和20年	終戦

青字 : 英虞湾の干拓、埋め立て
赤字 : 赤潮や酸欠などの環境問題
緑字 : 環境改善のための取り組み

真珠養殖の黎明期

第一次真珠増産期

事業中断



英虞湾周辺における社会情勢の変遷

西暦	年号	
1946	昭和21年	伊勢志摩国立公園の指定を受ける 冷潮による被害が発生
1947	昭和22年	三重県水産試験場がアコヤガイの採苗技術を確立
1948	昭和23年	真珠供養祭が行われる
1949	昭和24年	改正漁業法が公布され新規着業者が増加 冷潮による被害と生産増加による母貝不足により母貝価格が高騰。廃業や品質の低下が顕著となる
1950	昭和25年	業者数が331となり戦前の経営体数を超える
1951	昭和26年	志摩観光ホテルが開業 採苗技術の発達により、母貝養殖漁家が急増
1952	昭和27年	業者数が1200経営体を超える 真珠養殖事業法の施行により、計画的な真珠生産が図られる
1953	昭和28年	台風13号により大きな被害を受ける
1955	昭和30年	賢島に国立真珠研究所が開設される(～昭和58年)
1956	昭和31年	船越浦、片田浦、立神浦で貧酸素によるアコヤガイの大量へい死が発生
1957	昭和32年	三重県真珠養殖事業条例を制定。筏の台数等に規制が行われる
1958	昭和33年	立神浦で貧酸素によるアコヤガイの大量へい死が発生
1959	昭和34年	伊勢湾台風により大きな被害を受ける(9月27日)
1960	昭和35年	チリ津波により大きな被害を受ける(5月24日) この頃からアコヤガイの寄生虫による被害や衰弱によるへい死が増加
1961	昭和36年	浜島町に海上保安庁浜島分室を設置 浜島町で第1回伊勢海老まつり開催
1963	昭和38年	三重県が海水交流調査を実施(浅海漁場開発事業調査として昭和41年まで実施)
1964	昭和39年	この頃高圧海水洗浄機の開発や合成繊維の普及により、ビン玉を使用した延縄式養殖施設が開発される
1965	昭和40年	鵜方浦で貧酸素によるアコヤガイの大量へい死が発生 伊勢～磯部間を結ぶ「伊勢道路」が開通 三重交通志摩線が近鉄志摩線となる 硫化水素の発生を抑制するため、底質改良剤(石灰)の散布事業が始まる(～現在)
1966	昭和41年	県営志摩用水(神路ダム)が着工
1967	昭和42年	過剰生産、品質低下により真珠が暴落「真珠不況」に陥る 浜島～御座間を結ぶ「奥志摩フェリー」が就航
1968	昭和43年	県営志摩用水が送水を開始
1969	昭和44年	阿児町鵜方駅前の新田を埋め立て、市街地化が進む 浜島町に合歓の郷が開業 賢島カントリーが開業
1970	昭和45年	近鉄特急が賢島まで乗り入れ アコヤガイの天然採苗が不調となる(～昭和46年) 志摩マリランドが開館
1976	昭和51年	アコヤガイの人工採苗技術が確立
1977	昭和52年	第19回自然公園大会が大王町ともやま公園で開催される
1979	昭和54年	浜島港臨海土地造成(水試前埋め立て)が竣工 国立真珠研究所が養殖研究所に統合される(昭和58年に南伊勢町に移転)
1980	昭和55年	三重県栽培漁業センター竣工
1981	昭和56年	阿児町鵜方浦で小規模浚渫事業を実施(～昭和57年)
1982	昭和57年	志摩町向井浦で小規模浚渫事業を実施(～昭和58年) 阿児町立神浦で水路開削
1983	昭和58年	志摩町長田浦で小規模浚渫事業を実施(～昭和59年)
1984	昭和59年	三重県水産技術センター竣工 全国豊かな海づくり大会が浜島で開催される
1985	昭和60年	阿児町鵜方浦で小規模浚渫事業を実施
1988	昭和61年	志摩町長田浦、越賀浦(～昭和61年)、和具オコジ浦、阿児町立神浦で小規模浚渫事業を実施
1987	昭和62年	志摩町片田浦、和具浦、間崎で小規模浚渫事業を実施 浜島カントリーが開業
1988	昭和63年	阿児町神明中津浦(昭和63年)、志摩町間崎船隠浦で小規模浚渫事業を実施 リゾート法に基づく「三重サンベルトゾーン」が承認 志摩町布施田浦で小規模浚渫事業を実施(～平成2年)
1989	平成元年	「奥志摩フェリー」が運航を休止 合歓の郷ゴルフクラブが開業
1991	平成3年	志摩町片田浦で小規模浚渫事業を実施
1992	平成4年	新種の有毒プランクトン、ヘテロカプサによる赤潮が発生。大きな被害となる プライムリゾート賢島が開業
1994	平成6年	ヘテロカプサによる赤潮が発生
1995	平成7年	賢島宝生苑が開業
1996	平成8年	貝柱の赤変を伴う原因不明の感染症が蔓延(～現在) ヘテロカプサによる赤潮が発生 志摩町和具浦で小規模浚渫事業を実施
2000	平成12年	ミキモト真珠研究所が低水温による感染症対策手法を発表 立神・波切海域で大規模浚渫事業が実施される(～平成14年)
2002	平成14年	冷潮による被害が発生 志摩の国漁業協同組合が誕生
2003	平成15年	地域結集型共同研究事業が始まる 片田・船越海域で大規模浚渫事業が実施される 三重県真珠養殖漁業共同組合が誕生
2004	平成16年	志摩郡の5町が合併し、志摩市が誕生
2005	平成17年	立神・波切海域で大規模浚渫事業が実施される(～現在)
2006	平成18年	冷潮による被害が発生
2007	平成19年	ホテル近鉄アクアヴィア伊勢志摩が開業 真円真珠誕生100周年記念フォーラムが賢島で開催される 第1回三重県真珠品評会が開催される

第2次真珠増産期

観光開発期

真珠養殖の混迷期